

はんだ山の風



新人ナースが加わり、さらにナースが輝く病院に!

平成30年度新採用看護師・助産師

Contents

P.2 大地震発生時、医療は人を救えるか? ~あなたと家族を守るために知っておきたい10のこと~
救急部 助教 高橋 善明

P.4 腫瘍センターだより「本学泌尿器科におけるロボット手術の現況と展望」
泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明

P.6 看護部「キラリ♡新人ナース」
4階西病棟 原口 由衣
7階西病棟 杉本 実南
6階東病棟 鈴木 志穂
7階東病棟 妹川 麻佑

P.8 看護部「専門・認定看護師の活動紹介」
透析看護認定看護師 石川 敬子



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。

発行 / 浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課)
Hpアドレス / <http://www.hama-med.ac.jp/>

過去の
はんだ山の風は
こちらから



大地震発生時、医療は人を救えるか？ ～あなたと家族を守るために知っておきたい10のこと～

救急部 助教 高橋 善明

東日本大震災から7年、熊本地震から2年が経過しました。当地においても南海トラフ地震の発生確率は30年以内に70～80%とされています。平成25年に発表された静岡県第4次地震被害想定によると、本県では最大死者数10万5000人、全壊焼失数30万4000棟という甚大な被害が見込まれています。さらに県西部地域では、病院機能低下により20000人以上の傷病者への医療対応の不足、すなわち病院での診療が困難になる状況が予想されています。県や市町はそれぞれ医療救護計画を策定して対策を進めていますが、それだけで十分な医療対応は困難でしょう。大災害時には公助だけに頼るのではなく、一般市民の皆さんの「自助・共助」が必要不可欠です。

私たち浜松医大災害医療派遣チーム（DMAT）は、災害超急性期における一般市民の自助・共助に対する意識を高め、大切な命を一つでも守ることを目的に、2018年3月4日「大地震発生時、医療は人を救えるか」と題した市民公開講座を開催しました。第一部は行政（浜松市）、病院（浜松医大）、それぞれの立場から災害対策についてお話しし、最後に救急・災害医学講座 吉野教授が一般市民にもできるトリアージ（市民トリアージ）と簡単な応急処置についての講演を行いました。

た。第一部の要点は「知ってほしい10のこと」として以下のようにまとめました。

- ①自助・共助が防災力を高める
- ②情報の入手・発信で健康維持
- ③災害時に有効なお薬手帳
- ④災害医療の鍵はCSCA！
- ⑤病院は準備を進めています
- ⑥それでも大幅な医療対応力不足が予想されています
- ⑦災害医療で大切なことはTTT
- ⑧トリアージをちょっと知りましょう
- ⑨救命処置で一番大切なのは止血！
- ⑩大災害時は搬送も市民の手で

第二部は「あなたにもできるトリアージ～誰から？どこに？どうやって？～」と題して、机上シミュレーションを行いました。グループごとに着



参加者同士によるグループディスカッション

席した参加者の机上にはある町内の地図が置かれており、参加者はその町内の住民であると仮定します。ある日、その町内に大地震が発生し、多くの怪我人が発生しました。幸い自分は無傷です。さて、どのような行動をとりますか？というような想定の下、怪我人を「市民トリアージ法」を使って重症者、軽傷者にトリアージ（ふるいわけ）し、その怪我

人をどこ（病院？救護所？）に、どうやって連れて行くのかを、参加者とDMATメンバーがディスカッションしながら一緒に考えました。

講座終了後の参加者アンケートでは、「大地震時、トリアージや救護・搬送はできますか？」という問いに対して、できる 25%（14/55人）、一部ならできる 71%（39/55人）という結果であ



ファシリテーターの説明を聴く参加者

り、多くの方に「自助・共助」の大切さを理解して頂けたと評価しております。また本講座の継続開催の要望も多かったため、今年度も開催すべく、すでに企画を進めています。詳細が決定し次第、ホームページなどで広報したいと思います。皆様、是非ご参加ください！



浜松医大災害医療派遣チーム(DMAT)のメンバー

本学泌尿器科における ロボット手術の現況と展望

泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明



2015年11月に本学泌尿器科における1例目のロボット手術として前立腺全摘除術を執刀させていただいた際の心地良い緊張感が、昨日の事のように思い出されます。それ以来、ロボット手術の充実を泌尿器科における最重点課題として捉え、2017年には100例を超えるロボット手術を施行し、2018年中には通算300例の大台を超えるよう日々黙々とロボット手術に取り組んでおります。本稿では、当科におけるロボット手術の現況（本稿執筆の2018年7月時点）と展望を術式別に解説させていただきます。

前立腺全摘除術は2012年に保険収載され、本学にダヴィンチXiが導入された時点では既にロボット手術が標準術式として普及しつつありました。そこで単に前立腺をロボットで摘除するだけでは先行施設に追いつけないと考え、当科としての特徴的な取り組みを模索しました。様々な検討の結果、前立腺癌の生命予後が良好であることを考慮すると、神経温存による排尿および性功能等の機能的成績を重視した手技を積極的に採り入れることにしました。それにより、癌制御を可及的に維持しつつ、QOLを含む非常に優れた機能的成績を得ており、また縦断的に集積した術後成績の解析から、それらを制御する新規因子を新たに同定することも出来ました。現在156例にロボット支援前立腺全摘除術を施行しておりますが、当面は現在の術式を踏襲しつつも、経時的に手術成績を検証し、その結果を謙虚に受け止め、新たな手技の導

入を含め柔軟に対応して行きたいと考えております。

ロボット支援腎部分切除術は、保険収載直後の2016年4月に県下の第1例目を執刀させていただいた後、現在までに91例に施行しております。腎部分切除術は、腫瘍の大きさ、位置等により、複数のアプローチを使い分け、腎動脈阻血下に限られた時間内で、腫瘍切除および2層の縫合操作を行うことが求められる難易度の高い手術です。腎部分切除術の短期成績として、切除断端陰性、温阻血時間25分以内、観血的処置を要する術後合併症無しとの3項目をtrifectaとして重要視しますが、当科のtrifecta達成率は90%を超えており、全国的にも極めて良好な成績です。当科のロボット手術の特徴として、腎部分切除術の症例数が相対的に多いことが挙げられますが、これはこのような成績をご評価いただき貴重な症例を多数ご紹介いただいた結果であると感謝しております。また、50数例を経験後、術式の抜本的な改良を行った結果、手術成績はより安定化しており、現在では図のような困難症例（背側の腎門部付近に位置する大きな腫瘍）に対しても、積極的にロボット支援腎部分切除術を施行し、その適応を拡大しております。

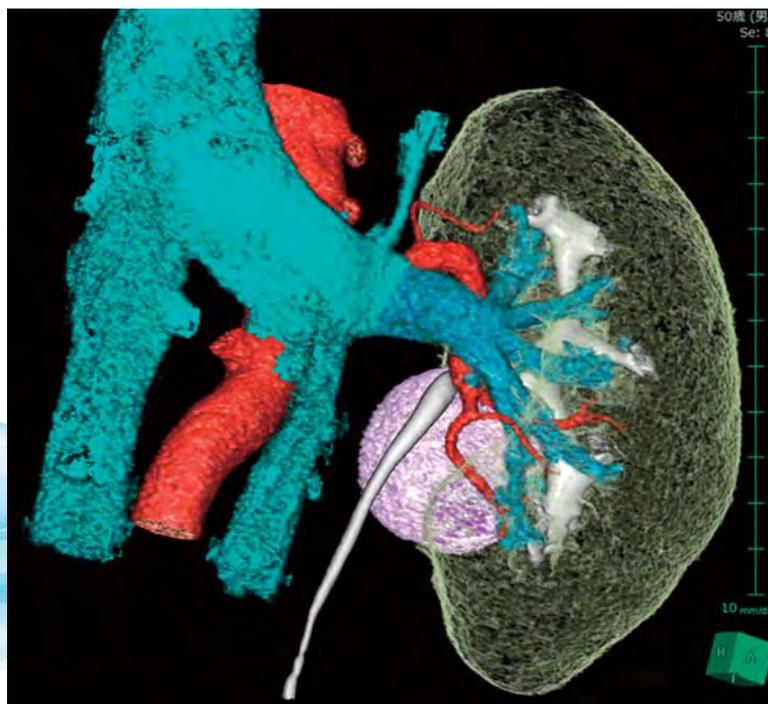
上記の2術式に加え、今年度からロボット支援膀胱全摘除術も保険適応下に施行可能となりました。当科では倫理委員会の承認を得た上で、昨年度中に計5例にロボット支援膀胱全摘除術を施行しており、浜松市内では唯一同手術に対して保険請



求可能な施設基準を満たしております。現時点で計8例に施行しており、少数例の経験ながら良好な結果を得ておりますが、まだまだ発展途上の術式であり、腔内操作による尿路変向術導入も含め、今後多くの検討課題を一つずつ解決して行きたいと考えております。

以上、当科のロボット手術の現況と展望を要約させていただきました。現在、麻酔科および手術室スタッフを中心とした関係各位のご協力によ

り、泌尿器科では週に4件のロボット手術が施行可能な態勢を整えております。今後も安全性には最大限の配慮をしつつ、高難易度の症例も含め積極的にロボット手術を施行することで、当科が東海地方の泌尿器科低侵襲手術の拠点と見做されるよう教室員一同努力して参る所存です。本誌読者諸氏におかれましては、当科に対しまして引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ロボット支援下腎部分切除術施行した腎門部背側に位置する長径約4cmの腎細胞癌

1 憧れの小児科病棟に入職

4階西病棟 原口 由衣

私はインターンシップでPNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）制度を間近で見て、多くの知識と技術を先輩方から学ぶこと、看護師がペアで患者さんをみることでより安全な看護ができると思ったことがきっかけで浜松医大に就職を決めました。学生時代からの憧れであった小児科病棟に配属され、初めてのことで戸惑うことも多いですが病棟の先輩方が丁寧に指導してくれます。さらに困っていることなどの相談を親身に聞いてくださるので非常に心強いです。また、同じ部署の同期も私を含め5人おり、日々お互い

に支え合いながら頑張っています。

小児科病棟は成人と違い、疾患も多岐にわたり児の成長発達によって診るポイントが異なるため、専門的な知識や技術が求められます。見ひとりひとりに合った個別性のある看護を実践することができるよう、ひとつひとつ着実に身に付けていきたいです。



2 患者さんからの「ありがとう」の言葉がうれしい

7階西病棟 杉本 実南

4月から看護師として働き始めて、早くも4ヶ月が経ちました。この4ヶ月間、点滴作りや採血などすべてが初めての経験で緊張と戸惑いの毎日でした。また、学生の時とは異なり、1日に多くの患者様を受け持つので、一人ひとりの疾患を考え、どのような声かけをしたらよいのか迷い、日々自分の無力さを感じています。しかし、プリセプターの先輩をはじめとする、多くの先輩看護師の丁寧なご指導のおかげで、少しずつですが、病棟の雰囲気になれることができました。そして、未熟な看護師であるにもかかわらず、患者様

から「ありがとう」という言葉をもらえた時は、看護師になってよかったなという気持ちになります。

私が学生の時から大切にしてきた看護は、患者様とその家族の心に寄り添う看護です。まだまだ慣れないことが多く、日々勉強の毎日ですが、ご家族を含め、患者様一人一人を大切に、患者様の心に寄り添う温かい看護が提供できるようにこれからも頑張っていきたいです。



3 「情報共有の大切さ」を学んだ新採用者研修

6階東病棟 鈴木 志穂

新採用者研修では、病院の理念や看護部の目標といった勤務にあたっての共通理念の学習、看護師業務における知識の習得に向けた講義・技術演習等、様々なことを体験・学習しました。研修の中で特に印象的であったのはグループワークです。メンバーそれぞれが持っている知識や経験が異なるため、意見交換の場では様々な意見が飛び交いました。話し合いの中で相手の意見を聞き、「そういう考え方もあるな」「そこは思いつかなかった!」といった新たな発見があったり、それぞれの意見を統合することでさらに違った答えが見えてきたりと、意見交換を密に行なうことでより良い答えを導き出せることを学びました。この

学びは、病棟での看護師間や他職種間でのカンファレンスにも通じるものであると感じています。

また、グループメンバーは全員配属部署が違います。そのため、病棟の特徴や経験内容も異なり、体験の振り返りを行なった際には、自分が今まで体験していないエピソードや先輩から教わったこと・患者さんから教わったことなどを共有でき、自分の看護観を深めるとても良い機会となりました。

新採用者研修で学んだこと・感じたことを今後の業務へと生かして励んでいきたいと思っています。



4 日々の積み重ねを大切にしていきたい

7階東病棟 妹川 麻佑

私は浜松医大に就職し、希望である循環器内科・皮膚科病棟の配属になりました。4ヵ月が経ち徐々に新しい環境にも慣れてきました。

覚えることも多いですが、働く中で先輩からいただいたアドバイスはメモをとり、疾患・薬剤・治療法など足りない知識を補うため疑問に感じた点はその日に調べ、次に繋げられるよう努力しています。“患者さんが退院後どのような状態であれば、望む生活に近づけるのか”“再発予防や症状に気づくためにはどのような看護ケアや関わり方が必要か”という視点で患者さんと関わる先輩をみて、心と身体と生活すべてを視野に入れるこ

との大切さを改めて実感しています。

私の大切にしている看護は「患者さんの心の声に耳を傾け寄り添い、ニーズに応えること」です。まだまだ未熟ですが十分な知識と確かな技術を身につけるため、定期的開催される勉強会へ積極的に参加し、看護に必要な技術を安全に行えるよう何度も練習していきます。日々の積み重ねを大切にこれからも努力していきます。



腎臓病への理解を深め、透析導入を予防しよう

透析看護認定看護師 石川 敬子



慢性腎臓病は、成人8人に1人の割合にみられる国民病の一つといわれています。慢性腎臓病を放っておくと、徐々に腎臓のはたらきが低下して末期腎不全にまで進み「透析」が必要になります。脳卒中や心筋梗塞などの合併症のリスクが3倍以上と生命の危険が高まる可能性があります。また、透析を実施している患者さんは全国で32万人を越し、そのうち生活習慣病（糖尿病・腎硬化症）がもとで透析となった方は6割まで増加しています。そのため慢性腎臓病の重症化を防ぐために、腎障害の早い段階から診療を始め、生活習慣の見直しがされるようになってきました。

現在、私は血液浄化療法部に所属し、透析看護認定看護師として安全で安楽な透析治療の提供と、その体制づくりを目標に活動しています。それと併せて、腎臓病の進行を防ぐために腎臓外来で腎臓病はどのようなものか、治療やデータの意味、生活習慣の見直しなどを説明させていただいています。腎臓病の患者さんは無症状で経過していることが多く、自分の身体の状態がどうか理解しにくい場合があります。具体的にその方のデータを示しながら病態の説明をすることで、患者さんは病気を理解し、治療を受け入れることができるようになります。この早い段階の説明が治療意欲への動機づけとなり、病気の進行の予防につなげることができます。

しかし慢性腎臓病が進行し、腎臓のはたらきが15%をきると「近い将来に透析が必要」となり、透析の心構えと準備を行なう時期に入ります。患者さんは、透析は必要なのか、他に方法はないか、どんな治療かなど様々に思い、悩まれています。そのような場合、腎臓のはたらきを代行する腎代替療法（血液透析・腹膜透析、その他腎移植）のメリットやデメリットの説明や治療を組み込んだ生活を具体的に説明するなど、治療法選択の手助けをさせてもらっています。説明を受ける

ことで、患者さんは心の準備だけでなく、日常生活の準備や費用のことなど治療開始後の生活を思い描くことができるようになり、治療を前向きに考えることができます。

血液透析の患者さんは高齢化がすすむ一方、糖尿病などで40歳前後の若い方の導入も目立ちます。治療は週3回通院して時間も拘束されます。また、日頃の食事や体調管理に注意が必要です。高齢者の独居や要介護、認知症など、通院や体調管理の難しさがありますし、若い方でも合併症により支援が必要となることがあります。患者さんが自分らしく生活するための支援を患者さんとご家族を含め、病棟のスタッフや介護支援専門員とともに調整を行ないます。さらに透析施設間でどう情報をつなげていったらよいのかなど、各透析施設の看護師とも話し合いを始めました。これからも、腎臓病進行の予防から透析治療まで、患者さんが病気や治療とうまくつきあっていけるようお手伝いできればと思います。

腎臓病の方で病気のことを詳しく知りたい方は、いつでも外来の医師を通して声をかけてください。



実際の物品を見ながら説明

外来診療日一覧

2018.8.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632											
一般内科	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
第一内科	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ
	神経内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	水曜日：○午前のみ
	感染症専門外来			◆				◆			午後のみ
第二内科	肝臓内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆	
	禁煙外来	◆			◆	◆					
第三内科	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆	
	血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：○午前のみ
	免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
ペースメーカー外来											予約のみ、要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
精神科神経科 受付電話 435-2635 ※平成28年5月から、初診完全予約制を実施しています。											
	初診・再診		◆		◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来	児童思春期外来						◆	◆	◆	◆	
	成人発達障害外来			◆				◆			
	摂食障害専門外来							◆	◆		
	デイケア						◆		◆	◆	
小児科 受付電話 435-2638											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	内分泌・遺伝		◆				◆				
	内分泌		◆				◆				
	心臓				◆	◆			◆	◆	
	血液				※	※			◆	◆	※初診は随時電話で
	免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆		◆	◆	
	神経	◆	◆		◆	◆	◆		◆		
	腎臓				◆				◆		
	新生児フォローアップ						◆	◆		◆	
	乳児検診	◆					◆				
CCS外来									◆	第4週のみ	
小児外科 受付電話 435-2638											
	初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆	
外科 受付電話 435-2641											
第一外科	呼吸器外科			◆					◆		◆
	一般外科（内視鏡）	○		○		○	○		○		○
	乳腺外科	◆	◆			◆	◆	◆			◆
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
外科 受付電話 435-2642											
第二外科	上部消化管外科			◆					◆	◆	
	下部消化管外科	◆					◆			◆	木曜日：○午前のみ
	肝・胆・膵外科				◆	◆			◆	◆	
	血管外科		◆		◆			◆			木曜日：○午前のみ(下肢静脈瘤)
緩和ケア外来		◆			◆		◆			◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆
専門外来	教授外来（脊椎）	◆			◆	◆	◆			◆	
	骨粗鬆症				◆	◆				◆	
	リウマチ			◆	◆				◆	◆	
	手・末梢神経			◆					◆		
	脊椎	◆					◆				
	腫瘍			◆					◆		
	股関節					◆					◆
	肩関節					◆					◆
	膝関節・スポーツ					◆					◆
	小児整形	◆					◆				

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科 受付電話 435-2650											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	◆		◆			◆		◆			
アトピー外来	◆		◆			◆		◆			
光線過敏症外来		◆					◆				
脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
乾癬外来		◆					◆				
皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
化学療法スキンケア外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653											
初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
専門外来				◆					◆		医師交代制
腎移植外来				◆					◆		
排尿障害外来		◆					◆				
不妊症外来		◆			◆		◆			◆	第1、3、4、5週のみ
腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：○午前のみ
専門外来		◆					◆				
網膜変性外来		◆					◆				
斜視・弱視外来								◆			
ロービジョン										◆	
角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659											
初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	◆					◆					
腫瘍外来	◆					◆					
耳外来				◆					◆		
めまい外来			◆								
耳鳴外来		◆					◆				
難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
顔面神経外来					◆					◆	
鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください											
産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	里帰り分娩等の方は、妊娠20週までに一度受診していただき、分娩予約をお願いします
婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腹腔鏡外来				◆					◆		
母親学級							◆				第2週：前期、第4週：後期
漢方外来		◆					◆				第1、2、4週のみ
ART室 受付電話 435-2664											
不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665											
放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
放射線診断科 IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
リハビリテーション科 受付電話 435-2747											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ ○午前のみ
専門外来			◆					◆			午後のみ
義肢・装具外来			◆					◆			
嚥下外来	◆		◆			◆		◆			
痙縮外来		◆		◆			◆		◆		
高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科 受付電話 435-2496											
初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		
歯科口腔外科 受付電話 435-2673											
初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
専門外来			◆					◆			
唇顎口蓋裂外来			◆					◆			
インプラント外来		◆			◆		◆			◆	
顎補綴			◆					◆			
矯正歯科					◆					◆	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。